



### CONTENTS

三重大学の産学官連携体制：抱負と期待	1	会員企業紹介	5
鈴鹿医療科学大学に薬学部設置（予定）	2	三重 T L O 技術移転および特許情報	6
みえ医療・健康クラスター設立	3	第 6 期営業報告	7, 8
研究室紹介	4	平成 19 年度事業計画および体制	8

### 三重大学の産学官連携体制：抱負と期待

三重大学理事・副学長（研究担当）  
創造開発研究センター長 奥村 克純



この四月に研究担当理事・副学長、加えて創造開発研究センター長に就任して、はや四ヶ月。この間、特に進めてきた産学官連携の体制づくりと、昨今の地方大学を取り巻く厳しい状況を踏まえつつ、今後の大学

としての研究と産学官連携について私の思うところを述べ、TLO会員の皆さまの三重大に対する一層のご理解と今後の提案への積極的な参画をお願いしたいと思います。

就任直後、センターで「大学教員には自由にのびのび楽しんで研究をして頂きたい。創造開発研究センターの充実こそがこれを実現できる。コーディネータが教員の活動を常日頃から十分把握して、研究成果から産学官連携の芽を見出し、売り込む。各位には大学のために何ができるか考え、常にスキルアップすることを念頭に活動して頂き、みんなで三重大の名を上げましょう。」と宣言し、センターの新しい体制づくりに取り組んできました。

まず実働的な体制を行うために組織の見直しを行い、三重大学の社会連携活動の全貌を創造開発研究センターで把握し、大学としての意志決定や予算取りを含むメリハリをつけた活動をするために社会連携戦略会議や企画グループを置いて、頻繁にミーティングをもっています。また、センターに関わるスタッフが全体の活動を把握し、同時に活動例から学ぶ場として創開センター全体会議

を組織しました。個々のグループミーティングも活発に行われ、会議に上げていく。ここにきてようやく組織図も落ち着いてきた感があり、さらに部局との連携の充実や、研究組織等の将来構想との連動を視野に入れ、動かしながらさらによりよい体制を構築すべく、模索していく方針です。

さて、最近は特に「地方大学で一番になる」と宣言し始めています。もちろん旧帝大に負けない基礎的先端研究について世界的な拠点づくりに意欲がある研究者やグループ、また、三重大の特徴となり得る研究者やグループを積極的に取り上げ、三重大の研究姿勢を示すとともに、それらの情報発信にも力を入れていこうと思います。一方で、地方大学のフットワークの良さを武器に、学長の理解の元、旧帝大にできないような産学官連携の場を提案していきたいと考えています。

企業の核となる人材を大学院教育を通じて育成するシステムから、海外を含めた様々な規模の企業を大学に引き込むシステム、こうした提案を三重県や産業界の力をお借りして積極的に打ち出していきたいと思います。具体的なことは何も書きませんが、乞うご期待ということで、今後注目して頂きたいと思います。

三重大が深く関わるみえメディカルバレーがバイオクラスターランキングで高評価され、地域貢献度でもベストテン入りは逃したものの三重大は評価が高い。しかし、満足してはいけません。他に先駆けて地方大学のモデルとなるべき成功例を、文字通り産・学・官の連携で実践しましょう。

最後に、こうした取り組みの中で忘れてはならないのが、支えて頂く事務方の存在です。事務方にとっても仕事に楽しみを見いだせる弾力的な活動体制を築いていくことが、大学全体の活性化と躍進、「地方大学で一番になる」ことにかかせないことを念頭において進めたいと思います。

## 鈴鹿医療科学大学に薬学部設置（予定）

薬学部準備室 鎮西 康雄

### 薬学部の開設

鈴鹿医療科学大学では、4 番目の新学部として薬学部設置を決め、平成 20 年 4 月開設を目指して文部科学省に設置申請するとともに開校の準備を進めている。11 月末には設置が認可され、学生募集を始める予定である。医学・薬学の発展と医療の進歩に伴い、臨床薬学や医療実務に精通し医薬分業にも対応できる薬剤師の養成が社会的課題になってきたが、文部科学省は薬剤師養成を新たに 6 年制に改め、平成 18 年度以降は、新規設置については、6 年制薬学部のみを認可している。全国の国公私立の 6 年制薬学部はすでに 55 校が開校し、入学定員は 11,300 となっている。

### 三重県初の薬学部

東海 3 県（愛知・岐阜・三重）では、これまで公立 2 校、私立 1 校で、最近の新設私立 2 校を加えても 5 校で、入学定員は、700 名弱であり、他の大都市圏と比較して、かなり少ない状況にあった。一方、人口 186 万人の三重県にはこれまで薬学部がなく、人口当たりの薬剤師の数も全国平均よりかなり少ない。三重県は、関西圏中京圏の中間に位置し、立地条件が良いことから、鈴鹿地区伊賀地区を中心に、医薬化粧品メーカーの工場などが多く進出し、薬品産業が急成長しており、出荷額の伸びでは全国 1 位となっている。こうした状況と医薬分業の進む中で、三重県は薬剤師が不足し、需要はますます大きくなってきている。数年前から、三重県は健康医療福祉産業の振興を目的とした「みえメディカルバレー事業」を推進してきたが、薬剤師養成はその中核であり、薬学部の設置が待望されてきた。一方受験生側からも、県内に薬学部がないため県外大学へ行かなければならないことから、薬学部の設置の要望は強かった。鈴鹿医療科学大学での薬学部設置はこれらの要望要請に応えるものになると考えている。

### 本学の現状と本学薬学部の特色（目指すところ）

本学は放射線技師養成のための 4 年制大学として平成 3 年にスタートした。その建学の理念として「科学技術の進歩を、真に人類の福祉と健康の向上に役立たせる」を掲げている。その後いくつかの学部学科を併設してきて、現在は保健衛生学部 4 学科、医用工学部 2 学科、及び鍼灸学部 1 学科 の 3 学部 7 学科の体制で、コメディカルスタッフの養成を行っているが、薬学部を加えることで、4 学部 8 学科となり、三重県下では三重大学とともに健康医療福祉系大学として充実発展しつつある。三重大学医学部は医学科、看護学科をもち、本学とは補完的な関係にあるので、両者が協力することで相互の発展と地域医療に貢献ができる。本年 5 月、両大学は健康医療福祉を中心に教育・研究・地域貢献・大学管理などの課題で協力するべく包括的な大学間協定を締結した。地域の産業への貢献も視野に入れ、企業研究者

との共同研究や再教育などで役割を果たしていきたいと考えている。

三重県内の高等学校から薬学部への進学は 250 名前後、受験生は 500 名とされている。本学では定員を 100 名に絞り、少人数のきめ細かい教育を目指している。三重大学との協定に基づき、医学部の医学科や看護学科の協力を得て、附属病院での病院実習をはじめ、医学看護学を学び、患者を主体とした医療実践のための薬学教育ができる体制の構築を進めている。また、本学は東洋医学や福祉学・栄養学・臨床工学・理学療法学・放射線技術科学、医用情報学など、他分野の授業をも履修可能とし、特に健康福祉に関する教育を行って幅広い医療人の養成を目指している。教授陣には薬学各分野でのトップレベルの人材を揃え、三重大学や他大学その他国公立研究所や企業研究所との連携も行って、レベルの高い研究も展開する予定である。

### 三重県と鈴鹿市の支援

鈴鹿医療科学大学に設置される薬学部は、三重大学の医学部・生物資源学部・工学部などとともに、三重県のみえメディカルバレー事業の重要な一翼を担うことになると考えている。これには三重県や鈴鹿市からの大きな期待も寄せられ、それぞれ多大の支援が決められている。こうした援助等により、質の高いきめ細かな教育と高レベルの研究が実現でき、他大学にない特色ある教育が可能となっている。

新しい薬学部のキャンパスは、近鉄白子駅から程近い国道 23 号線沿いの NTT 跡地を利用し、鈴鹿市が構想しているサイエンスパークの一角を占めることになっている。現在教室実習室はじめ学園にふさわしい設備の充実が図られ、緑多い公園的雰囲気のある素晴らしいキャンパスが整備されている。

（イラストを参照）。



以上のように、各方面から期待されての三重県初の薬学部であるが、期待にこたえる教育研究を行い、地域に貢献する人材を輩出し、地域の発展に寄与できるように、大学をあげて取り組んでいくつもりである。ご支援とご指導をお願いしたい。

## みえ医療・健康・福祉産業クラスター設立

クラスターマネジャー 三田 泰久

この4月に経済産業省の『広域的新事業支援連携等事業補助金』に採択され、『みえ医療・健康・福祉産業クラスター』が立ち上がり、既に約4ヶ月が経過しました。

本クラスターは、三重県のメディカルバレープロジェクト（以下 MVP）が対象とする医療・健康（食品含む）・福祉分野の産業クラスターです。三重県内では MVP と連携し、東海エリアでは東海バイオものづくり創生プロジェクトと連携して事業を進めています。

クラスターと言うと、産学官それぞれから会員が加盟するネットワーク型組織を立ち上げ、そのシナジー効果によって特定の産業を地域に根付かせ、強化することを目的とすることが一般的です。しかし、当クラスターの場合は少し事情が異なります。三重県では MVP が6年前から活動を開始しており、既に医療・健康・福祉産業をこの地に根付かせ、その基盤を強化するというクラスター的な役割を果たしています。それゆえ、本クラスターでは民間ならではの目に見える支援を提供することを目的としています。具体的には、新規事業開発支援、製品化支援、起業支援を中心に会員企業を支援しています。

新規事業開発支援では、大学との共同研究や他企業との連携によって、新規事業のシーズ開発を支援しています。製品化支援では、大学との共同研究や独自の研究で生まれたシーズを、製品化に向けて一歩でも二歩でも進めることをお手伝いしています。起業支援は、この産業内のベンチャー企業の創業期を支援しています。

大学との共同研究推進は、従前から三重 TLO が実施してきたことです。そこで、製品化においても、新規事業開発支援においても、重視しているのは異なる能力を保有する企業の連携推進です。これを実現するためには、会員の多様性を高めることが重要になります。それゆえ、会員は原則的には分野は医療・健康・福祉に限定されることとなりますが、その顔ぶれは材料メーカー、加工メーカー、最終製品メーカー、販売会社、調査会社、コンサルティング会社など多士済々です。

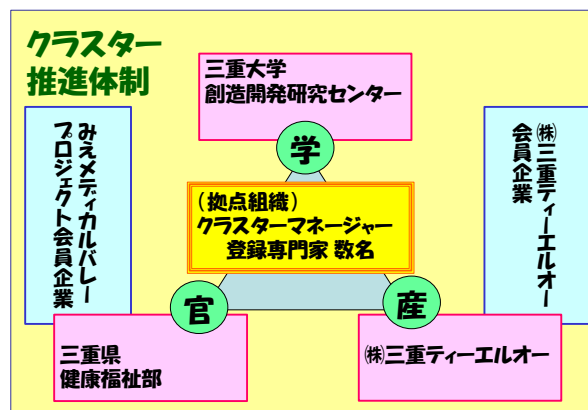
販路開拓においても、基本的な手法である展示会出展という形でもサポートしますが、製品特性に応じた手作りのサポートに注力しています。初年度である本年度に多数の製品の販路開

拓を手作りで支援できれば、それがノウハウとなってクラスターに蓄積され、2年目以降にはクラスター独自の販路開拓パターンが出来るだろうと考えています。既に、国内販売支援だけでなく、アメリカ、中国を中心とした海外販売支援でも動き始めています。

起業支援は、正に手作りです。会社設立当初の事務的な手続きはどの会社にも共通ですが、その後に抱える問題は正に百社百様です。それを手作りでサポートし、そしてそのベンチャー企業がクラスター会員となって他の企業と連携することは、その企業の繁栄にも、そしてクラスターの繁栄にも繋がり、正に一石二鳥となります。

本クラスターの説明等で会員企業と話をさせて頂いていると、『様々な会議体があるが、同業者が多い場所ではなかなか本音や手の内を明かせない』という声を多く耳にします。確かにその通りだと思います。当クラスター活動では、会員が一同に会するのは知識習得や一般的なネットワークキングの機会と定義し、クラスターマネジャーをはじめとする関係者のセンス、創造力、情報交換を通じて、企業間の連携をコーディネートしていくことを大事にしていきたいと考えています。

みえ医療・健康・福祉産業クラスターでは、年間を通じて会員を募集しています。経済産業省の補助事業で運営していますので、入会金・年会費は不要です。ご興味のある方は、三重 TLO（電話 059-231-9822）クラスターマネジャーの三田（サンダ）までお問合せ下さい。多くの皆様に会員としてご参加頂けることを、心よりお待ちしております。





## ◆ 研究室紹介 ◆

三重大学大学院医学系研究科薬理ゲノミクス分野  
教授 田中利男、助教 島田康人、助教 臧黎清

2003 年にヒトゲノムシーケンスが読了され、真にポストゲノムシーケンス時代に突入し、最も大きなパラダイムシフトとして革新的治療戦略が出現しました。そこでこの次世代ゲノム創薬科学を実現するために、NEDO 大学発事業創出実用化研究開発を展開しています。

### 1. 独自のメタボリックシンドロームモデル創成；

メタボリックシンドロームは、肥満症、脂質異常症、糖尿病、高血圧症を基礎にした代表的な生活習慣病です。我々は、このメタボリックシンドロームモデルを、独自に創成することにより、革新的な薬物療法、食事療法や運動療法を開発することを可能にただけではなく、それぞれの治療ゲノム機構の解析システムを構築しました。

### 2. ゼブラフィッシュの比較薬理ゲノミクス；

革新的治療法は、優れた疾患モデル動物の活用により発見されてきました。ヒトと同様に脊椎動物であり、ゲノムシーケンスもほぼ完了しつつあるゼブラフィッシュを世界の研究者が注目するようになりました。そこで、我々はゼブラフィッ

シュを第3の医学研究モデル動物として導入し、数多くの疾患モデルを創成し、ゼブラフィッシュ DNA チップにより医薬品の薬効/毒性や機能性食品の作用機構を解析しています。

### 3. ゲノム創薬科学とゲノム創食科学；

メタボリックシンドロームは、典型的な生活習慣病であり、その予防や治療は食事療法や運動療法が基本として非常に重要です。そこで、食餌内容、食餌量、食行動、運動量などの定量的解析システムを構築しています。その結果、メタボリックシンドロームの治療ゲノム機構の解明だけではなく、現在深刻な社会問題である小児肥満症、拒食症や過食症の疾患遺伝子解析やその治療薬探索をも、可能にしています。

### 4. 多彩な心不全モデル創成と新規治療遺伝子の発見；

メタボリックシンドロームが、心臓に合併症を発現すると、最終的には心不全となり死に至ります。そこで多彩な心不全モデルを、創成しました。また、治療ゲノム機構において主役を果たす新規心不全治療遺伝子を発見し、今後の心不全における新しい治療戦略シーズとして展開しています。

三重大学大学院工学研究科 分子素材工学専攻  
エネルギー変換化学研究室  
教授 武田保雄、准教授 今西誠之 助教 平野 敦

私たちの研究室は、固体化学と電気化学の融合という観点から、様々な新物質の探索、構造研究、物性研究等の基礎研究と、それらをリチウム二次電池、全固体二次電池、固体燃料電池等の材料に適用する応用研究の両方を行っています。以下に主な研究を紹介します。

### 1. 固体化学的なアプローチ

新しい化合物（酸化物、カルコゲナイド、窒化物など）の合成、構造、物性研究という結晶化学的な基礎研究を行なっています。たとえば、複合酸化物の酸化物イオン導電性と元素の電子状態の関連性、インターカレーション化合物の薄膜界面における電荷移動の研究など、学問的にも興味は尽きませんが、それらの成果が次世代の燃料電池やリチウム二次電池の材料開発の基礎となればと念じています。

### 2. エネルギー変換のための電池材料

リチウム二次電池、全固体二次電池、高温型固体電解質燃料電池(SOFC)の電極および電解質材料の研究を重点的に行っています。リチウム二次電池の負極と正極材料開発、ポリマーリチウム二次

電池や夢の電池「リチウム-空気電池」、さらに三重 TLO と共同で進めている地域コンソーシアム事業「SOFC の高性能電極開発」(写真はその評価装置です)が、今もっとも力を注いでいる研究です。

私たちは、上記の1. と2. の研究をバランスよく進めるのが、将来のある学生の教育と、研究室の持続的な発展にとって大変重要なことと思っていますが、現在は2.の方にバランスが傾いています。私たちの研究が一応は社会に認められている証として大変うれしいのですが、将来に向けた基礎研究もおそろかにしてはいけないと肝に銘じつつ研究を進めています。



三重 TLO より導入された SOFC 評価装置

## ◆ 会員企業紹介 ◆

### 株式会社 きもと

〒511-0411

三重県いなべ市北勢町京ヶ野新田73-5

TEL : 0594-72-2781 FAX : 0594-72-4011

<http://www.kimoto.co.jp>

「見えないところで魅せてます-KIMOTO-」

当社は1952年（昭和27年）に、精密写真の作製からスタートし、設計製図・印刷製版材料を中心とした機能性フィルムの総合メーカーとして、つねに高精度表面加工技術を基礎に製品の開発を進め、時代のニーズに合わせ、地理情報技術や電子工業分野向けの高性能フィルムなどを開発してまいりました。また、2006年には東京証券取引所市場第一部へ上場し、さらなる発展を目指しております。

きもと三重工場は、1979年にいなべ市北勢町に進出し、10万6千平方メートルの敷地の中で260余名が勤務しています。

ISO14001（2004年度版）、ISO9001（2000年度版）も既に取得し、独自の開発技術と加工技術を活かして、インクジェット出力用フィルム（スーパーキモアート）、DTP用のフィルム刷版（キモプレート）やタッチパネル用ハードコートフィルム（KBフィルム）、液晶バックライト用光拡散フィルム（ライトアップ）、プリント基版作成用保護フィルム（キモテクト）、光触媒セルフクリーニングフィルム（ラクリー

ン）などの、多分野の高機能性フィルムを多種製造しており、当社の主力工場となっています。

特に、三重県が推進する「クリスタルバレー構想」にいち早く取り組み、FPD産業に貢献してまいりました。その他にも、毎年開催している「学童軟式野球KIMOTO杯」も今年で3回目を迎え、三重県内ならびにいなべ市のさまざまな地域活動に賛同し、参加しております。

きもとの製品は、IT関連企業から官公庁に至るまで幅広くお客様の製品、システムに組み込まれることで役立っており、派手に自己主張することなく、言わば“縁の下の力持ち”的な存在ですが、無くてはならない魅力ある製品として活躍しています。

見えないところで魅せることを誇りに、これからも顧客とともに輝き続けます。



### 株式会社 中川製作所

〒514-2395

三重県津市安濃町荒木580-1

TEL 059-268-2325 FAX 059-268-0907

<http://www.nks-j.com>

当社は昭和13年に東京都北区にて創業し、小径ドリルや紡績針の製造をしてまいりましたが、第二次世界大戦の戦火を逃れるために三重県に移り住んで参りました。戦後は紡績針の製造に事業を特化し、それ以降は日本の主要紡績会社に針の納入をして参りました。日本の紡績会社が世界へ生産を展開する中、国内以外にもインド、中国、ヨーロッパ、オーストラリアをはじめとした世界のマーケットに向け、針の設計・製造・販売を行っております。

紡績針に続く第2の事業として、昭和50年からはタフティングマシン（じゅうたん織り機の1種）の設計・製造・販売を開始し、現在では日本、アメリカ、中国、UAEのお客様に設備納入や改善の提案を行っております。我々のタフティングマシンで織られたカーペットは自動車の内装や、玄関用マット、ほかほかカーペット、空港や図書館、大規模オフィスの床面用で使用されております。最近では弊社の顧客経由でハワイのヒルトンホテルグループやラスベガスのベネツィアンホテルの客室にも採用されました。

平成12年からはタフティングマシンの構成部品を製作する技術をもとに、精密金属部品加工を手がけ、自動車、家電、重機関連をはじめとしたさまざまな分野のお客様に納入しております。精密部品加工の

延長として、平成16年からは微細加工分野に進出し、現在では石英ガラスやシリコンウエハーを中心とした硬脆性材へのチップングレス（カケを極限まで抑える）加工を行い、大手光学メーカー様や測定器メーカー様の試作研究のためのお手伝いをさせていただいております。

平成16年より三重TLOの元代表取締役でもある妹尾先生のご紹介で三重大学工学部の鈴木泰之先生にお世話になり、DLC（ダイヤモンドライクカーボン）膜の研究を始めました。さまざまなご指導のおかげで平成17年にはJST（科学技術振興機構）の「加工技術」枠より、平成18～20年は経済産業省の「戦略的基盤技術高度化支援事業」枠よりそれぞれ補助金を頂き、硬くて滑りの良い膜をリーズナブルなコストで作るための研究をしております。

本年には経済産業省より「元気なモノ作り中小企業300社」2007年版に選ばれました。これからもユニークなモノ作りを通じて社会のお役に少しでも立てるよう、事業を展開して参ります。



## 三重TLOの技術移転および特許情報 (No. 16)

平成18年11～平成19年5月期間に、三重大学及び三重TLOから出願した特許の概要は以下のよう  
です。

分野	単独出願	企業との 共同出願	備考
材料・機械	4	13	電池材料、物性測定装置等
電機・電子	1	1	ダイオード結晶等
環境・エネルギー	1	2	バイオエタノール関連等
食品・農業	0	2	
医療診断・スクリーニング方法	3	0	モデル動物等
医薬品・医療関連	0	1	癌治療
計	9	19	

上表に示すように、当該7ヶ月期間における特許出願件数は28件、うち2/3以上が従来同様に企業との共同出願でした。内容的には、材料・機械関連が増加し、バイオ関連（食品、医療等）が従来に比べ減少しました。

### 2. 単独出願特許の概要

単独出願のうち、6件の概要をご紹介します。

分類	名称	概要および用途
材料・ 機械	有機・無機ハイブリッド蛍光体	$\pi$ 共役系ポリアリレンビニレン化合物の数種類を混合し、発光色が白色となるよう組合わせた蛍光体であり、紫外発光体を組み込んだ自己発光体である。競合品と比較して輝線がなく高い演色性を示すため、医療診断等の用途が期待できる。
	固体間接触部の評価方法	固体間接触部の隙間に熱拡散率の異なる気体を封入し、固体表面の熱波減衰を測定することにより、真実接触面積を評価する。クラッド材等の接合状況の評価に使用できる。
	回転粘度計	モルタル等の高濃度サスペンションのレオロジー測定用回転粘度計であって、既存品に比べ測定精度が改善される。
電機	モデル予測制御に基づくモータのトルク制御方法	インバータの特性や過渡状態を考慮し、スイッチングベクトルの最適化を実現する。永久磁石同期モータの電流応答が向上するため、装置の小型化や、損失低減による効率向上が期待できる。
環境	アレルゲンの除去方法	海洋性由来のフミン物質と無機材料との混合体であり、織布、フィルター等に含浸させることにより、ダニアレルゲン等のアレルゲンを低減化する。
スクリーニング方法	心不全治療薬のスクリーニング方法	心不全症状を呈するゼブラフィッシュに試験物質を投与し、特定の酵素遺伝子の発現を測定することにより、心不全治療薬の候補物質をスクリーニングする。

以上に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。

(株) 三重TLO 技術移転部長 黒淵達史 e-mail;kurobuchi-ad@adp.jiii.or.jp

Tel 059-231-9822、Fax 059-231-9829

## 第6期営業報告（自 2006年4月1日 至 2007年3月31日）

### I 営業の概況

当年度は、国からの競争的研究資金収入や、県市などからの事業受託収入の増加など全般に事業量の拡大を達成することができ、大幅な利益向上を図ることができました。

営業収入の面について主な項目を説明しますと：

会費収入は入会勧誘活動の活発化により、微増ながら14,150,000円となりました。

学外企業・団体と三重大学などとの共同研究立上げ活動や民間企業と当社との共同研究に伴う共同研究収入は、前年を上回り26,114,386円となりました。

地域コンソーシアム事業や県市からの事業受託（メディカルバレープロジェクトの研究会運営事業など）に伴う収入は、経済産業省からのTLO補助金20,297,868円（税込み）を含め、113,218,224円であり、当社設立以来の大幅な増加となりました。

ロイヤルティ収入は、新規の所有特許がなくなったこともあり、前年比半減の1,815,055円となりました。技術指導料は695,719円となりました。

収入合計は、156,331,479円となりました。

営業支出の面では、販売費および一般管理費は182,240,870円となりました。

したがって営業損失は25,909,391円となります。

営業外収益は、マッチングファンドの助成金40,000,000円などを含め、40,556,801円となりました。また、営業外費用は、実験研究設備の購入などの資金確保のため、短期的に銀行からの借入れを実施したため支払利息883,401円を含め、988,611円となりました。

従って、税引前当期純利益は 13,659,799円となりました。

当社の主要な経営基盤の一つは、会員企業からの会費収入であり、会員企業のお役に立つため、当期は各種情報提供のためのサービスシステムの構築や、特定産業分野での研究会立上げなどに取り組んでまいりました。今後、幅を広げて内容を向上させるとともに、コーディネータ活動の質量とものレベルアップを図る所存であります。

### II 会社の概況（2007年3月31日現在）

#### 1. 主な事業

大学等における研究成果の産業界への移転に関する事業

#### 2. TLO承認

2002年4月16日文部科学大臣および通商産業大臣から「大学等における技術に関する研究成果の民間事業者への移転の促進に関する法律」第4条に基づく承認を受けました。

#### 3. 株式の状況

発行する株式総数800株、発行済株式総数300株、株主数190名、株式預り27株8名

#### 4. 主な事業所 津市

#### 5. 従業員の状況 6名

#### 6. 取締役および監査役

氏名	地位	氏名	地位
円城寺英夫	代表取締役	菅原 洋一	取締役
矢谷 隆一	取締役会長	村上 一仁	取締役
森野 捷輔	取締役副会長	渡邊 明	取締役
菅原 庸	取締役	相可 友規	監査役
岡本 一郎	取締役	谷口 貴裕	監査役

#### 損益決算書

（自2006年4月1日 至2007年3月31日）（単位：円）

#### 経常損益の部

##### 【営業損益の部】

##### 【営業収益】

##### 【売上高】

会費収入	14,150,000
特許関係収入	200,000
共同研究収入	26,114,386
受託収入	113,218,224
ロイヤリティ収入	1,815,055
知財業務委託収入	138,095

技術指導料 695,719

売上高合計 156,331,479

##### 【営業費用】

売上総利益 156,331,479

##### 【販売費及び一般管理費】

販売費及び一般管理費合計 182,240,870

営業損失金額 25,909,391

##### 【営業外損益の部】

##### 【営業外収益】

受取利息 50

雑収入 556,751

助成金 40,000,000

営業外収益合計	40,556,801
【営業外費用】	
支払利息	883,401
雑損失	105,210
営業外費用合計	<u>988,611</u>
経常利益金額	<u>13,658,799</u>
税引前当期純利益金額	13,658,799
法人税等	4,348,300
当期純利益金額	<u>9,310,499</u>

販売費及び一般管理費内訳書

(自2006年4月1日 至2007年3月31日) (単位：円)

役員報酬	1,050,000
給料手当	21,993,650
法定福利費	1,366,497
福利厚生費	54,316
広告宣伝費	547,272
交際費	188,092
会議費	1,511,699
旅費交通費	4,008,677
通信費	866,098
消耗品費	2,618,359
水道光熱費	96,253
新聞図書費	167,135
諸会費	282,859
保険料	5,200
減価償却費	307,612
租税公課	3,819,474
雑費	127,679
特許・調査費	115,605,863
特許・出願費	3,771,609
講演料	5,586,687
委託料	18,265,839
販売費及び一般管理費合計	<u>182,240,870</u>

貸借対照表 (2007年3月31日現在)

資産の部	
I 流動資産	
現金・預金	34,901,482
未収入金	117,344,552
流動資産合計	152,246,034
II 固定資産	
1. 有形固定資産	
建物付属設備	283,484
工具器具備品	1,133,209
有形固定資産合計	1,416,693
2. 無形固定資産	
電話加入権	66,000
無形固定資産合計	66,000
固定資産合計	1,482,693
資産の部合計	<u>153,728,727</u>
負債の部	
I 流動負債	
短期借入金	90,000,000
未払法人税等	3,406,500
未払消費税	1,214,900
未払費用	22,008,792
預り金	2,691,442
流動負債合計	119,321,634
負債の部合計	119,321,634
純資産の部	
I 株主資本	
資本金	15,000,000
II 利益剰余金	
利益準備金	3,000,000
III その他利益剰余金	
別途積立金	7,000,000
繰越利益剰余金	9,407,093
(うち当期純利益)	9,310,499
その他利益剰余金合計	16,407,093
利益剰余金合計	19,407,093
株主資本合計	34,407,093
純資産の部合計	34,407,093
負債及び純資産合計	<u>153,728,727</u>

平成19年度事業計画および体制

平成19年度は、経済産業省の補助金交付はなくなり、名実ともに自力経営の第1年度となります。また国からの競争的研究資金は2年度目に当たり、減少します。

その一方、産学官連携活動を通じての地域産業圏の発展ならびに、大学等の社会貢献に対する、当社の役割と活動は維持・拡充する方針であります。

このような情勢・背景をふまえ、収入の面では、会費収入15,000,000円、共同研究収入(みえ医療健康福祉産業ネットワーク形成促進事業を含む)15,000,000円、受託事業収入(地域コンソ、メディカルバレープロジェクト関連、みえ研究交流サロン、など)40,000,000円、マッチングファンド助成金60,000,000円などを含め、130,000,000円を見込みます。

支出の面では、経費のキメ細かい節減や不急の支出の削減などを行い、収支均衡を目指すとともに、経営基盤確立の見通しを確実にするように努力致します。

そのためにも、特に次の点に配慮しつつ活動することと致します：

1. 大型の競争的研究資金の獲得をめざす関連部門との共同活動

2. 企業・諸団体などの課題・技術ニーズの情報収集と掘り下げ
3. 各種情報提供などのサービス機能・活動の一層の拡充
4. 学内コーディネート活動部門との一層の共同・連携活動

新体制 (平成19年6月29日以降)

氏名	地位	氏名	地位
円城寺英夫	代表取締役	菅原 洋一	取締役
森野 捷輔	取締役会長	村上 一仁	取締役
矢谷 隆一	取締役相談役	奥村 克純	取締役
菅原 庸	取締役	相可 友規	監査役
岡本 一朗	取締役	辻 篤	監査役

㈱三重ティーエルオー

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577  
 三重大学創造開発研究センター内  
 TEL : 059-231-9822  
 Fax : 059-231-9829  
 E-mail : mie-tlo@zvtv.ne.jp  
 http : //www.mie-tlo.co.jp